

会場図

正面		
3	2	1
6	5	4

試合順

1	① 男子60kg級 1~41 ② 男子90kg級 1~20 ③ 男子100kg超級 1~8
2	① 男子60kg級 42~82 ② 男子90kg級 21~40 ③ 男子100kg超級 9~16
3	① 男子66kg級
4	① 男子73kg級
5	① 男子81kg級 ② 男子100kg級
6	① 女子48kg級 ② 女子52kg級 ③ 女子57kg級 ④ 女子63kg級

女子70kg級、78kg級、78kg超級は準決勝以上から始めます。  
早く試合が終了した会場は、他の試合から試合を回します。  
準決勝以上は以下の3会場で実施します。

正面

3	2	1
---	---	---

1. 試合時間

男女とも全て3分

準決勝、決勝は時間無制限のGSを適用する

2. 判定基準

【準々決勝までと3位決定戦】

技のスコアが同等の場合、指導の少ない方が勝者となる。

指導の数も同じ場合、旗判定によって勝敗を決する。

【準決勝および決勝】

技のスコアが同等の場合、指導の数に関わらずGSとなる。

GSでは技のスコアを先に得た方が勝者となる。

技のスコアが同等の場合、指導が多くなった方が敗者となる。

3. IJF試合審判規定2017(抜粋)

- ① 技のスコアは「一本」と「技有」のみとする。「技有」には従来の有効も含む。
- ② 「技有」2つでも一本と同等とはしない。(合技一本の廃止)
- ③ 抑え込みは10秒で技有、20秒で一本とする。
- ④ 「指導3」で反則負けとなる。
- ⑤ 標準的ではない組み方(クロスグリップ、方襟、帯持ち、ピストルグリップ、ポケットグリップ等)は、直ちに攻撃しなければ「指導」となる。
- ⑥ 「ベアハグ」の場合、攻撃する側が少なくとも片方の組手を持っていないならない。組手の無い状態でベアハグを施した場合は「指導」となる。
- ⑦ 下半身への攻撃および防御は、1回目は「指導」、2回目は「反則負け」となる。
- ⑧ 組手の無い状態でのベアハグや、下半身への攻撃をされた選手が、そのまま投技を施して相手を投げた場合、自身が技のスコアを得るとともに、相手に「指導」が与えられる。
- ⑨ 投技を準備するのに時間がかかるため、組んでから攻撃を仕掛けるまでの時間を45秒に延長し、それまでに技が無い場合は「指導」とする。
- ⑩ ブリッジの姿勢で着地した選手は「反則負け」となる。(頭と足でアーチを作った)
- ⑪ 取の攻撃に対し受が返し技を施した場合、自身の体が先に着地した方が投げられたこととする。

4. ダイレクトの反則負けについて

ダイレクトで「反則負け」となった選手はその後の一連の試合に出場できない。(この場合、主審は本部に報告しなければならない。)ただし、下半身への攻撃または防御による反則負けおよびブリッジでの反則負けは、この限りではない。

5. 呼び出しても選手が現れない場合

場内放送をかけて30秒を過ぎても試合場にこない場合は「棄権負け」とする。(両者が現れない場合は、両者棄権負けとする)

6. コーチ・監督の振舞い・言動について

監督、コーチは試合が止まっている間(「待て」から「始め」の間)のみ、選手に指示を与えることができる。試合続行中は指示を与えることはできない。また、以下の行為も禁止されている。

- (1) 審判の判定に対し、コメントや批判、訂正を要求すること。
- (2) 対戦相手、審判、役員、および自分自身の選手を侮辱するような言動
- (3) その他、柔道精神に反する行為

※違反した場合、1回目は口頭注意、改善されない場合は退場処分とする

7. 柔道着コントロール

選手は全柔連新規格の柔道着を着用しなければならない。規定のものでない場合は失格となる。また、規定のゼッケンを着用していない場合も失格となる。

女子の黒帯については、白線ありと白線なしのどちらも可とする。